

問1 次の植物の薬用部分を下記より選び、()内に答えなさい。

オタネニンジン(根) リンドウ(根) サフラン(柱頭) センブリ(全草) ベラドンナ(根)
トウキ(根) ミシマサイコ(根) チョウセンゴミシ(果実) トチバニンジン(根茎) ヒヨス(葉)
葉、茎、根、球茎、根茎、根皮、舌状花、管状花、子房、柱頭、果実、果皮、
種子、種皮、全草

生薬は薬用部分を知ることが大切です。根と根茎の違い、花のどの部分が等も注意してください。

問2 次の植物から調製される生薬名を下記より選び、()内に答えなさい。

ホソバオケラ(蒼朮) センブリ(当薬) ハシリドコロ(ロートコン) オケラ(白朮)
リンドウ(竜胆) トチバニンジン(竹節人参) トリカブト(附子) イヌサフラン(コルヒクム)
五味子、牡丹皮、蒼朮、白朮、ロートコン、人参、当帰、附子、
竜胆、コルヒクム、川芎、当薬、竹節人参、茴香、地黄、

正しい生薬名が分からないと生薬としての使用法や、性質などを調べることもできません。難しい漢字を書くことは必ずしも必要ではありませんが、植物名と生薬名との関係は大切です。

問3 次の生薬名の読み方を()内にヒラガナで答えなさい。

茴香(ういきょう) 白朮(びやくじゅつ) 柴胡(さいこ)
烏頭(うず) 紅花(こうか) 地黄(じおう)

正しい生薬名が読めないと生薬としての使用法や、性質などを調べることもできません。

問4 次の成分を含有する生薬を下記より選び、その番号を()内に答えなさい。

但し、答は1つとは限りません。

サポニン(7, 18)
アルカロイド(11, 14, 16, 17)
クロシン(2, 12)
ペオニフロリン(6, 15)
アネトール(3, 9, 13)

- ① 紅花 ② サフラン ③ 茴香 ④ 当薬 ⑤ 蒼朮 ⑥ 芍薬 ⑦ 人参
⑧ 当帰 ⑨ アニス実 ⑩ 五味子 ⑪ ロートコン ⑫ 山梔子 ⑬ 大茴香
⑭ ベラドンナコン ⑮ 牡丹皮 ⑯ ヒヨス葉 ⑰ コルヒクム ⑱ 竹節人参

生薬の主要な成分を知ることはその生薬の使用法や、用途、関連生薬などを知る上でも大切なことです。

問5 次の文章の内容が正しいものには○を、誤りのあるものには×を、()内に答えなさい。

さらに×を付けたものについては誤っている部分を正しく直しなさい。

- (×) 神農本草経の上薬に記載されている生薬は、作用が強い生薬なので専門家の指導の下で使わないと危険である。
下
(×) 生薬の牡丹皮と芍薬の基原植物は同属の植物であり、また薬用部分も同じ部分が使われる。
異なる
(×) ベニバナの色素成分の黄色は水に難溶性であるが、一方、赤色は水溶性である。
水溶性 水に難溶性
(×) ニンジンの成分であるジンセノシド Rg 1 群は神経系に対して抑制的に作用し、Rb 1 群は逆に興奮的に作用する。
興奮的 抑制的
(○) アカヤジオウの根を水に入れた時に浮くものを天黄、沈むものを地黄と呼び、生薬としては沈むものから調製されたものを良品とする。
(×) サフランとイヌサフランは地上部が非常によく似ているが、全く別の植物でサフランはユリ科、イヌサフランはアヤメ科の植物である。
ユリ科 アヤメ科

間違いやすい事柄については正確に記憶していないと、勘違いすることがあります。整理しておきましょう。

問6 次の設問に答えなさい。

- (1) 生薬「五味子」には5種類の味があると言われている。その味とは？
酸、甘、辛、苦、塩辛い
 - (2) 生薬「サフラン」は芳香が強く、苦味の少ないものほど品質が劣ると言われている。その理由とは？
鮮度が落ちると → 苦味成分が加水分解されて、芳香成分に変化します。
 - (3) 生薬「加工附子」はどのような目的で作られたものか？
有毒成分を減毒することと、 それによって強心成分(作用)が現れるようにするため。
 - (4) 生薬「人參」と「桔梗」はその外見がよく似ている。これらを簡単に区別するために用いられる薬品は？
ヨウ素試薬によりデンプンの有無を調べて区別します。人參は陽性ですが、桔梗は陰性です。
- 各設問の内容はすべて大切なことなので、記憶にしっかりと留めてください。

問7 あなたが行ったプレゼンテーションで取り上げた植物について答えなさい。

- (1)： 植物の和名 ()
- (2)： 植物の属する科名 ()
- (3)： 植物の薬用部分 ()
複数ある場合には1つでよい
- (4)： あなたがプレゼンテーションで一番伝えたかったのはどのようなことですか？
()